

## 小方尚子 - 新型コロナ禍の中での平均寿命 続伸



小方尚子

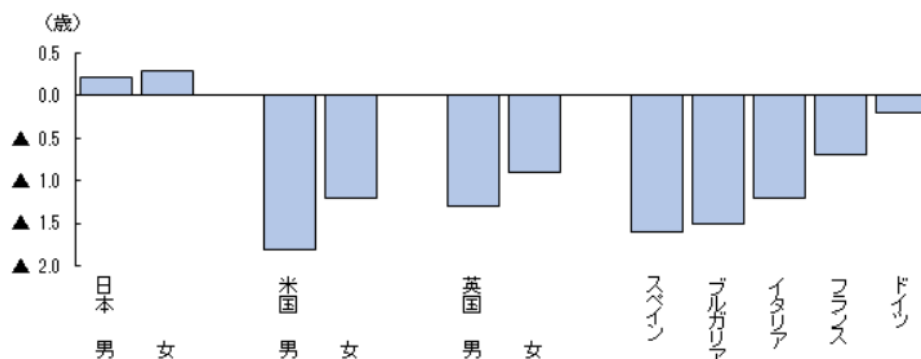
株式会社日本総合研究所  
調査部 マクロ経済研究センター 主任研究員

HR watcher

7月末に厚生労働省から発表された「簡易生命表」によると、2020年の日本人の平均寿命は男性81.64歳、女性87.74歳でした。前年から男性は0.22歳、女性は0.30歳長くなり、それぞれ9年連続、8年連続で過去最高を更新しました。

一方、欧米諸国では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大半の国で平均寿命が短くなりました。米国では、▲1.5歳と、第二次世界大戦で死者が増えた1943年以来の低下幅でした。欧州では、スペインの▲1.6歳を筆頭に、ブルガリア▲1.5歳、イタリア▲1.2歳、フランス▲0.7歳、ドイツ▲0.2歳などとなりました。

【図表】 2020年の平均寿命の変化（前年差）



資料出所：厚生労働省「簡易生命表」、CDC "The 2020 Decline in Life Expectancy"、Public Health England "Life expectancy in England in 2020" Eurostat "Life expectancy decreased in 2020 across the EU"

日本でも、厚労省によると、新型コロナウイルス感染症の流行は、平均寿命を男性で▲0.03歳、女性で▲0.02歳短くする影響がありました。また、医療機関が新型コロナへの対応に追われ、人々も受診を控える中、治療が遅れて癌や高血圧性疾患で亡くなる人が増えました。さらに、経済の悪化、孤独感の高まり等を背景に自殺者も若者、女性を中心に11年ぶりの前年比増加となりました。

しかし、新型コロナの感染防止に向けた取り組みが奏功して肺炎で死亡する人が大幅に減った上、外出自粛の動きに伴い交通事故で亡くなる人の減少傾向が加速したため、全体では平均寿命が長くなったのです。活動制限策による感染防止効果と経済停滞影響の二律背反は、どの国でも難しい課題となってきましたが、平均寿命の観点から見ると、短くなった国に比べ2020年の日本は新型コロナ禍の悪影響を抑え込めたといえます。

もっとも、安心するのは早計です。それは問題が顕在化するの今年とみられるからです。人々の「自粛疲れ」が強まる中、活動制限策の経済への抑止力が低下しています。そのタイミングで2020年の平均寿命続伸のニュースを聞いて、活動自粛を緩めてもよいのではないかと思う人もいたかもしれません。しかし、感染爆発が抑えられたのは昨年の話です。

今年について見れば、新型コロナによる死者数は7月末までに既に昨年の3倍を超えています。足元の感染第5波では、今のところ第3波、第4波に比べ死者数が抑えられているものの、医療提供体制が急速にひっ迫しており、新規感染者や新型コロナ以外の病気等への対応の遅れが問題となりつつあります。さらに自殺者については、急増に歯止めがかかったものの、経済の正常化が遅れる中、新型コロナ前を上回る水準で横ばい推移を続けています。外出自粛傾向がこのまま緩むのであれば、肺炎や交通事故による死亡者数減少の効果が薄れていく可能性もあります。

2020年の平均寿命続伸は、グッドニュースであったといえます。しかし、それに気を緩めることなく、感染拡大防止に向けた取り組みを引き続き徹底していく必要があるといえましょう。

## Profile

**小方尚子** おがた なおこ

株式会社日本総合研究所 調査部 マクロ経済研究センター 主任研究員

東京大学教養学部教養学科卒業。三井銀行（現三井住友銀行）入行と同時に三井銀総合研究所（現日本総合研究所）へ出向。2005年、法政大学大学院修士課程修了。アジア経済、米国経済の調査分析を担当した後、現在は、個人消費、雇用、賃金、物価など家計部門を中心とする国内マクロ経済分析に従事。